

決算発表説明資料

(平成29年3月期 第3四半期)

- 連結決算（経営成績）
 - 工作機械関連事業部門
 - 受注動向
 - 輸送機器関連事業部門
 - 財政状態



連結決算（経営成績）



公表 = 前回業績予想(11/9)

【前年同期比較】（累計）

●2016年度第3四半期 業績概要

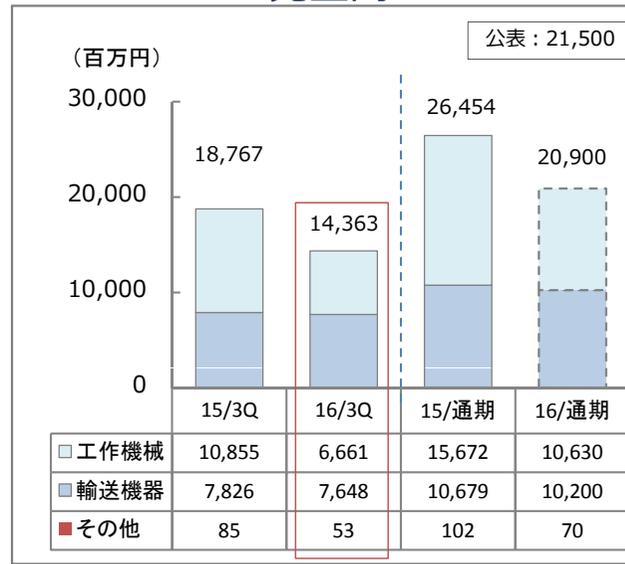
輸送機器関連事業部門は、本社、ベトナム現地法人とともに堅調に推移しておりますが、工作機械関連事業部門の損益が低迷しており、営業利益▲419百万円（前年同期は263百万円の利益）となりました。

●2016年度通期 業績見通し

工作機械関連事業部門は、システム案件の採算悪化等により、営業利益は計画を450百万円下回る▲800百万円の見通しとなりました。一方、輸送機器関連事業部門は計画を50百万円上回る+350百万円の見通しとなりましたが、全社では営業利益▲400百万円（公表0百万円）、当期純利益▲800百万円（公表▲400百万円）の計上を予想しております。

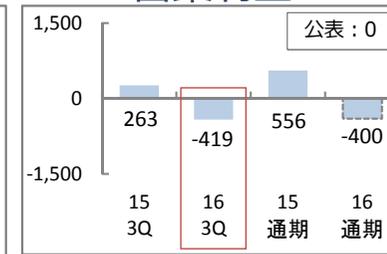
なお、工作機械事業関連部門においては、後述損益改善施策を展開しており、4Q(1-3月)営業利益は全社で黒字を計上できる見通しとなっており、2017年度の黒字回復に向け、全社一丸となって取り組んでおります。

売上高

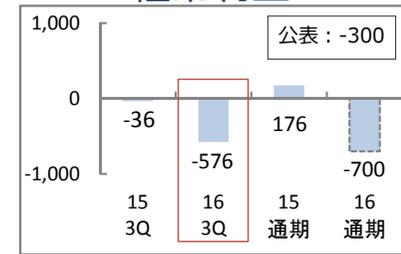


※16/通期は予測

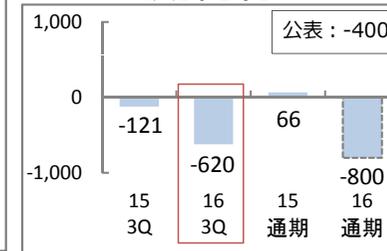
営業利益



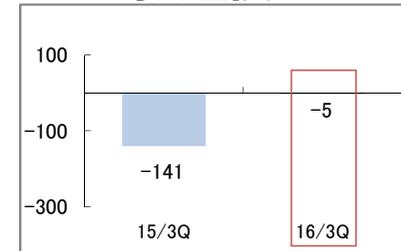
経常利益



当期純利益

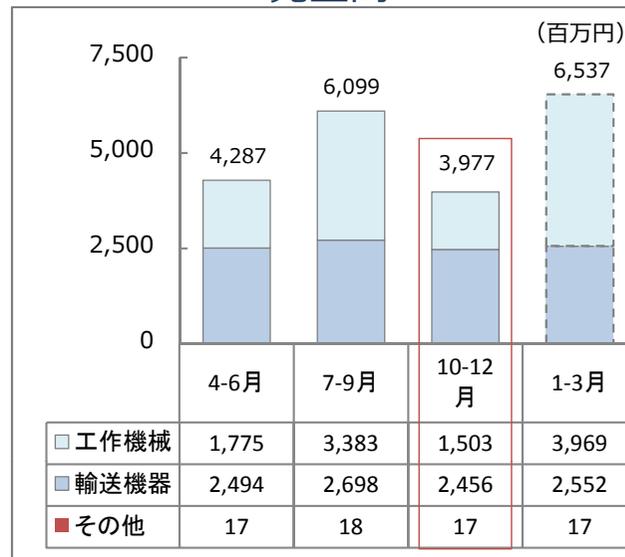


為替差損益



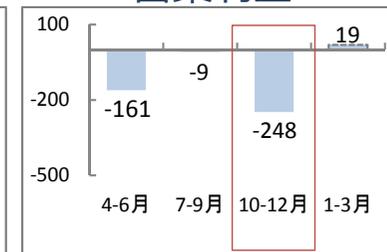
【四半期比較】

売上高

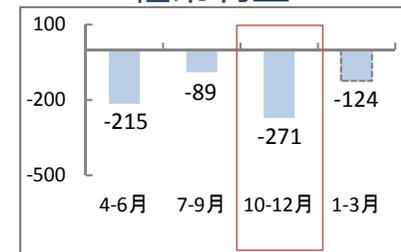


※1-3月は予測

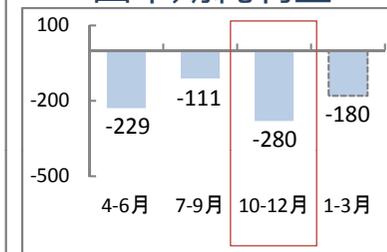
営業利益



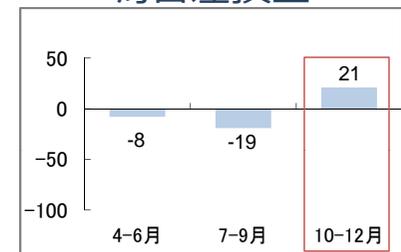
経常利益



四半期純利益



為替差損益



工作機械関連事業部門（経営成績）

公表 = 前回業績予想(11/9)

【前年同期比較】（累計）

● 2016年度第3四半期 業績概要

売上高につきましては、今期は大口システム案件がなかったことにより中国向けが大きく落ち込み、北米等の売上増でこれをカバーしきれなかったことから、前年同期比38.6%減となりました。

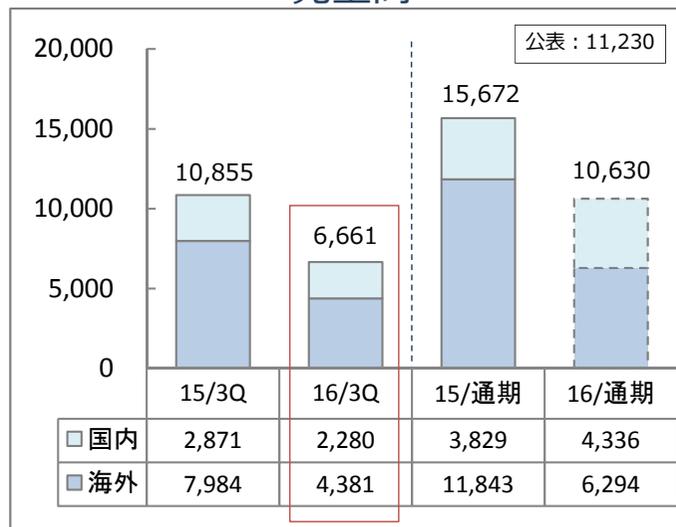
営業利益につきましては、コストダウン施策およびプロジェクト管理強化を継続しているものの、システム案件等の採算が想定以上に厳しく、694百万円の損失（前年同期は241百万円の利益）となりました。

● 2016年度通期 業績見通し

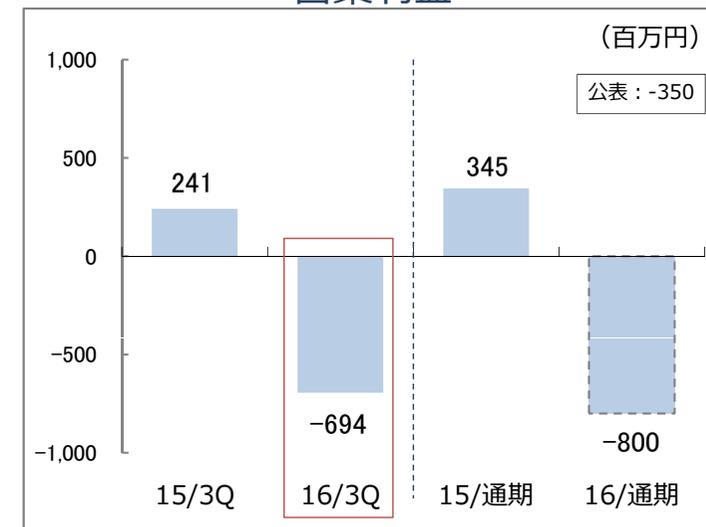
売上高につきましては、4Q(1-3月)で大幅に売上を増加させるものの、通期売上高は前回予想を若干下回る10,630百万円（前期比32.2%減）を予想しております。

営業利益につきましては、4Q(1-3月)は売上増により3Q(10-12月)に対し大きく改善するものの、黒字化までに至らず、通期で800百万円の損失（前期は345百万円の利益）を予想しております。

売上高



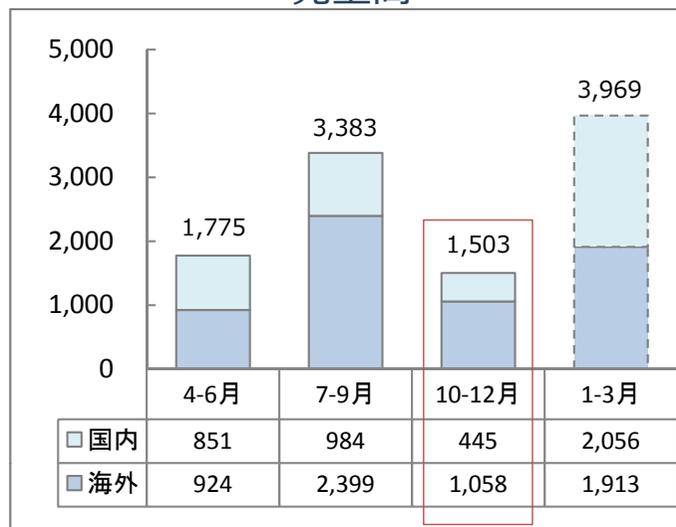
営業利益



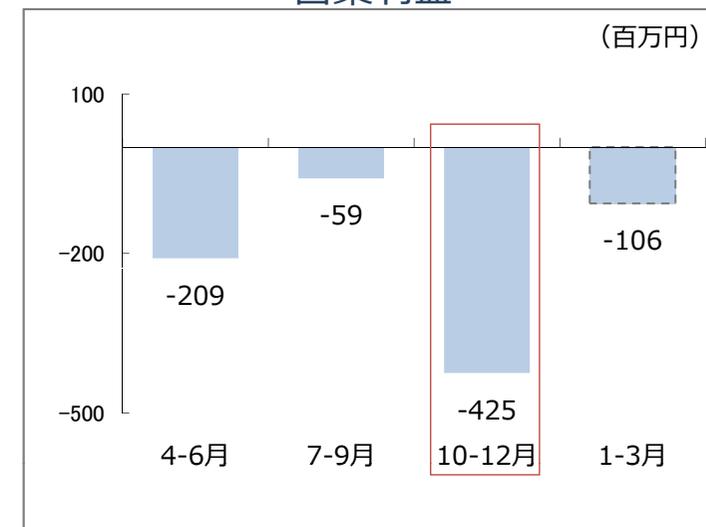
※16/通期は予測

【四半期比較】

売上高



営業利益



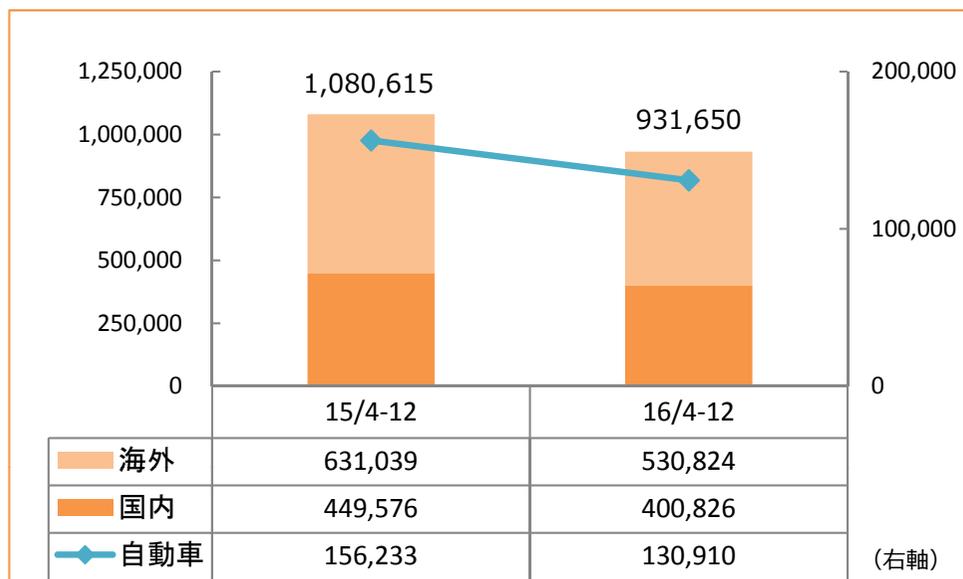
※1-3月は予測

【四半期推移】

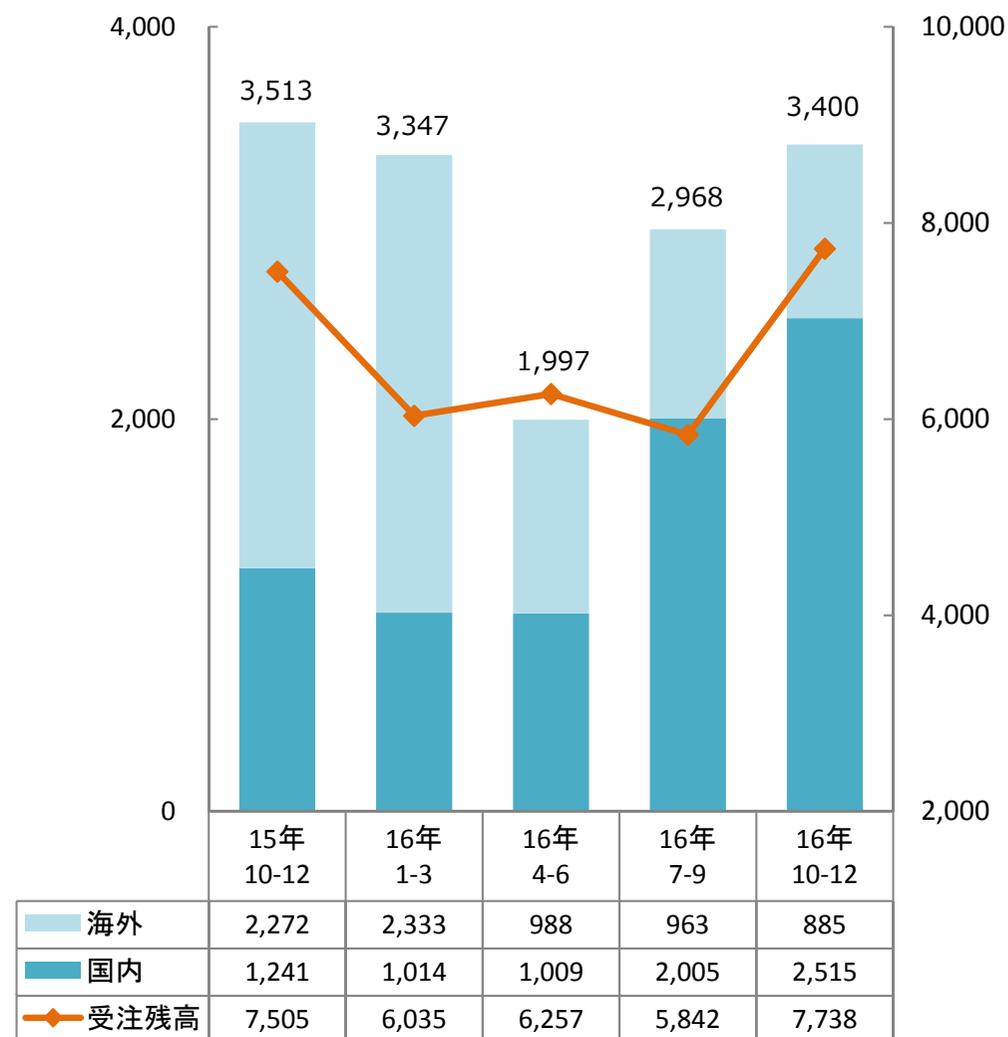
3Q(10-12月)は国内を中心に受注高を伸ばしましたが、4Q(1-3月)は国内が伸びず、受注高は減少する見通しです。

一方、営業活動強化による効果も現れ、中国、北米、国内を中心とした引合額は300億円を超える水準を維持しております。昨年11月には営業技術部を新設し、受注率を高めるべく注力しており、来期以降、受注高、受注残高は着実に回復していくものと見込んでおります。

☆日本工作機械工業会受注推移



☆当社の受注高及び受注残高推移



前述の通り、受注は着実に回復するものと見込んでおりますが、右記の施策実施により、今期程度の売上高でも利益を計上できる体質改善も進んでおり、来期以降は黒字を計上できるものと見込んでおります。

【1. 『ものづくり改革』3本の矢施策によるコスト削減】

- 仕事のやり方を変える
- コストに対する意識改革

- ①【原価企画】フロントローディングにより、
受注段階からコストづくり込みを推進
- ②【ものづくり企画】仕事の進め方改革
個々の物件に合わせた最適な仕事のやり方、流し方を検討実施
- ③【ものづくり管理】工程管理の徹底、
責任を明確化した管理によりコストを実現

【2. 調達改革】

- ①部品共通化、ロット手配拡大
- ②海外購買、共同購買の推進

輸送機器関連事業部門 (経営成績)

●2016年度第3四半期 業績概要

売上高は、国内が前年同期に比べ減収となりましたが、ベトナム現地法人の売上は増加し、7,648百万円（前年同期比2.3%減）となりました。

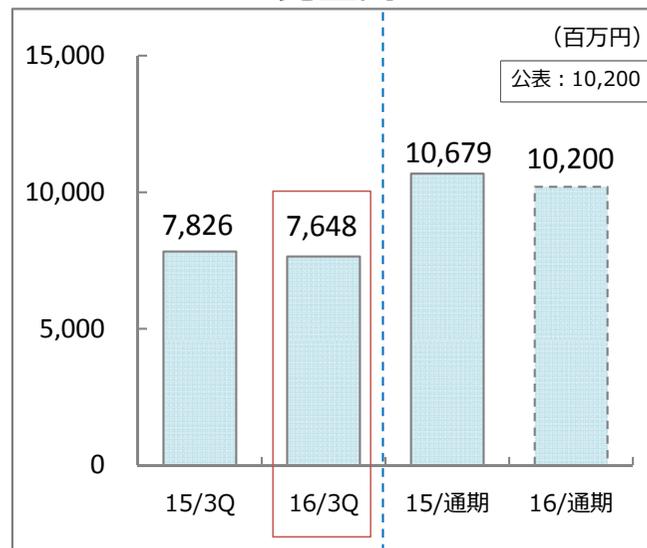
営業利益につきましては、ベトナム現地法人は順調に推移し増益、国内も労務費圧縮に加え、刃具、油、電力量等の変動費コスト管理が徹底されたことにより増益となり、合わせて236百万円の黒字（前年同期は47百万円の損失）となりました。

●2016年度通期 業績見通し

ベトナム現地法人の生産拡大に加え、国内も安定した収益を見込めることから、売上高は計画通り10,200百万円（前期比4.5%減）、営業利益は計画に対し50百万円増の350百万円（前期比172.4%増）を予想しております。

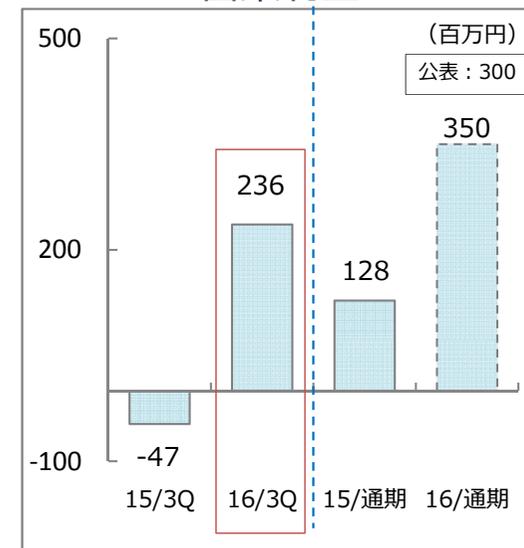
【前年同期比較】 (累計)

売上高



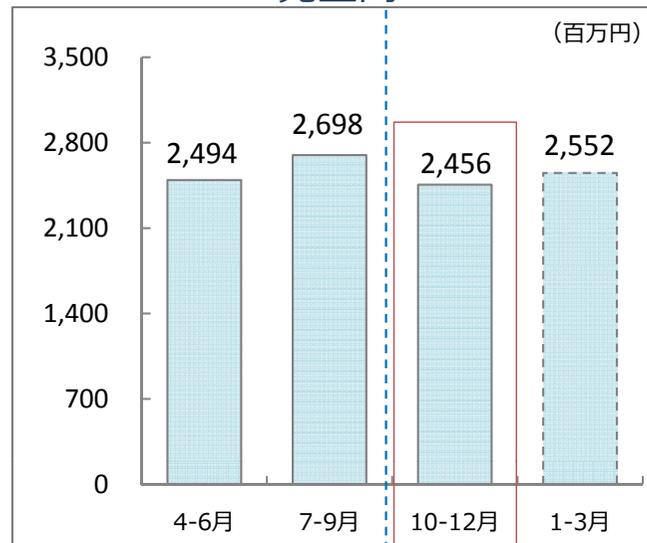
※16/通期は予測

営業利益



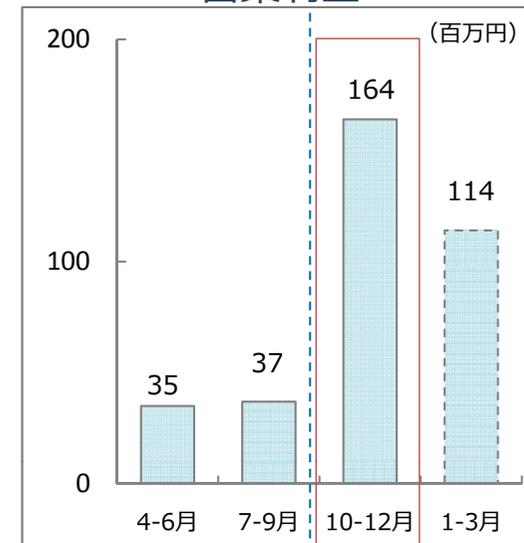
【四半期比較】

売上高



※1-3月は予測

営業利益



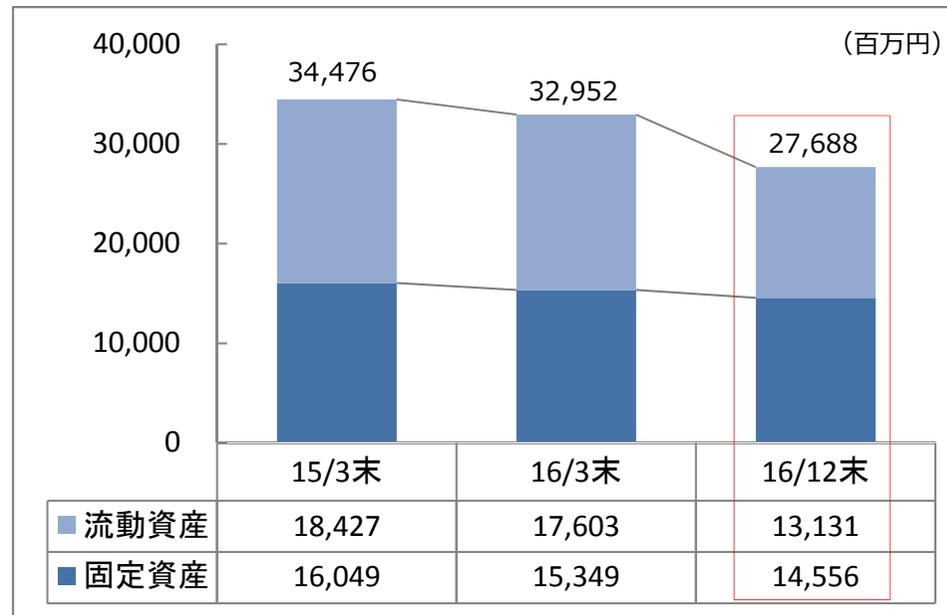
総資産

●財政状態

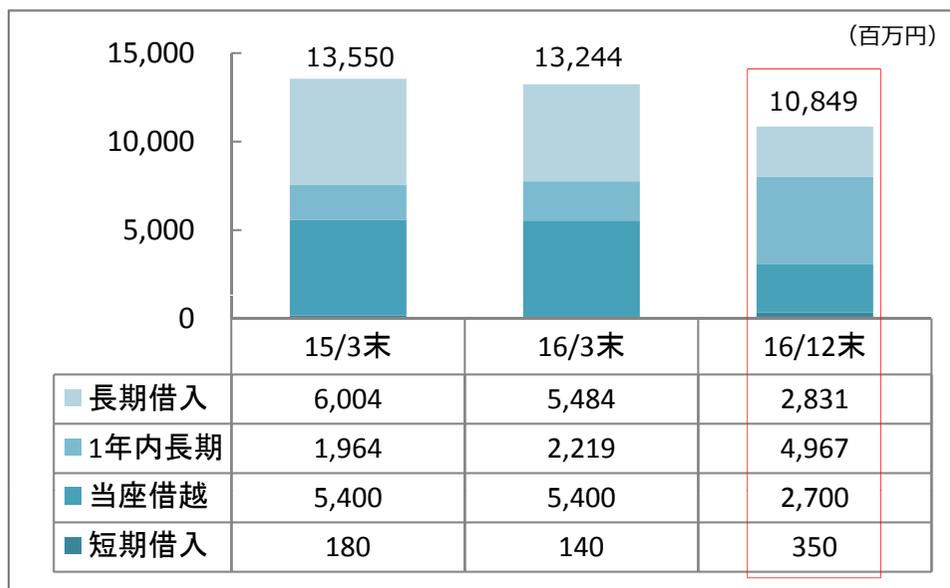
運転資金の圧縮により、バランスシート改善を継続しており、借入金、総資産は減少しております。

(総資産16/3末比 ▲5,264百万円)

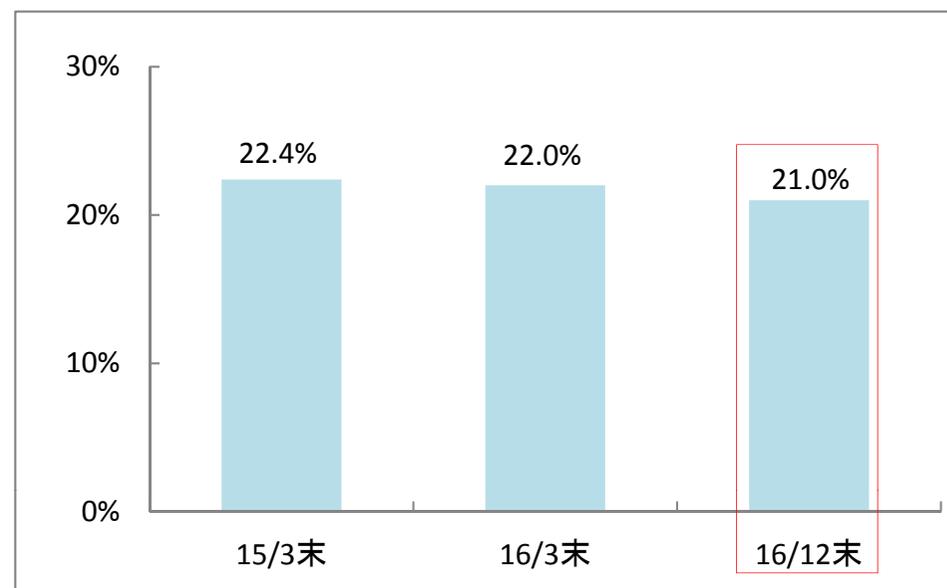
総資産は圧縮しましたが、利益剰余金の損失が増加したことにより、自己資本比率は1.0ポイント減少しております。



借入金



自己資本比率



注記事項

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。